

大豆だより

第2号

令和5年7月18日発行
西村山農業技術普及課
TEL：0237-86-8287

中耕・培土を適期に行い、生育量を確保！

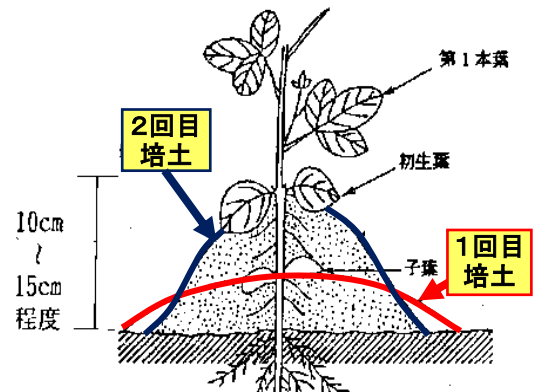
1 中耕・培土

【1回目培土のポイント】

- ☑ **3葉期**に、子葉節が隠れる高さまで行いましょう。
- ☑ 雑草が見え始めている圃場では、早めに行いましょう。

【2回目培土のポイント】

- ☑ **6～7葉期**に、初生葉節が隠れる高さ（15cm程度）まで行いましょう。



※培土が高すぎると、収穫時に土が混入しやすく、汚損粒発生の原因になります。

※遅くとも開花の1週間前までに終了します。

【培土の効果】

- ①培土した部分に不定根が発生して根域が拡大
- ②主茎の支持による倒伏防止
- ③畦間が排水溝の役割を果たすので、土壌表層の停滞水の排水につながる

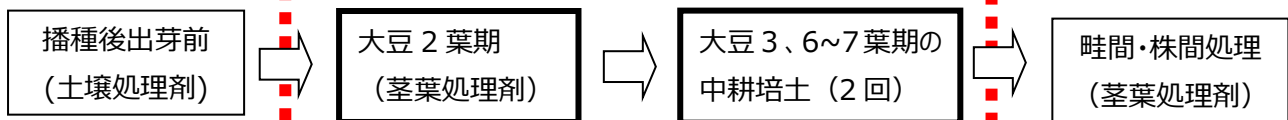
2 追肥

- ☑ **6～7葉期の中耕・培土時**に被覆尿素（LP コート 70）を窒素成分で 7.5kg/10a 施肥しましょう。着莢数及び百粒重が増加し、収量向上の効果が期待できます。

※地力の高低に応じて施用量を調整!! 硫安は過繁茂になりやすく、根粒活性も低下するので NG!!

3 帰化アサガオ類対策 — 茎葉処理剤の散布と中耕・培土の体系で対応 —

初期防除・大豆初期生育の確保が決め手！



管内の圃場で帰化アサガオ類が確認されています！

帰化アサガオ類がつる化し大豆に絡みつく前に、上記体系防除を行うとともに、補完的に手取りで対応しましょう。

帰化アサガオ類 早期対策で拡大させないことが重要です！

STOP 農作業事故！ 熱中症に要注意！

機械の点検は必ずエンジンを止めて、動かないことを確認してから行いましょう！